

普及活動情勢報告（平成30年10月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

さらなる飛躍へ！ ～JA四万十厳選にこまる現地研修会の開催～



現地ほ場視察の様子

9月20日、JA四万十厳選にこまるの販売先である大手米穀店（株）スズノブの西島社長を招き、ほ場視察や意見交換会を開催し、部会員12名が参加しました。

普及所は、現地ほ場で気象データに基づく稲の生育状況報告や、収穫までの管理を指導しました。

また、意見交換会では、西島社長から「異常気象における適切な栽培指導」や「県や町も連携した広報や販売網の拡大」など、ブランド化に向けてのアドバイスをもらいました。

今後も普及所は、部会員、関係機関と協力しながら、JA四万十厳選にこまるのブランド化を進めていきます。

県外からのアルバイトに快適な労働環境を！ ～ショウガ収穫アルバイト打合会の開催～



打合会の様子

9月27日、JA四万十営農総合センターで、ショウガ収穫アルバイト打合会が行われ、ショウガ部会員10名が参加しました。

本年は求人25名に対し、SNSの募集で既に20名のアルバイトの受入れが決まっており、その宿舍、移送手段、賃金、雇用開始等について協議しました。本年度は、ショウガほ場に近い宿舍の確保や、JA四万十みどり市が食事を提供するなど改善が図られました。

普及所は、作業に慣れないアルバイトの足腰の負担を軽減させるための補助器具を紹介しました。また、補助器具を使用する生産者には労働調査への協力を依頼しました。

今後は、県外からのアルバイトが気持ちよく働いてもらえる環境を様々な視点から考え、生産者・JAとともに改善していきます。

ショウガの栽培技術向上及び生産振興！ ～生姜部会圃場共進会の開催～



審査の様子

10月12日、生姜部会圃場共進会が開催され、農家11戸のほ場を生姜部会役員、JA四万十及び普及所職員11名が審査しました。

審査したほ場は、いずれも肥培管理や除草作業、病虫害防除等が行き届いており、優良なほ場ばかりでした。わずかに白星病の発生やハスモンヨトウの食害、塊茎の露出等が見られるものの、いずれも株張りや作柄が優れており、高収量が見込まれるほ場ばかりでした。審査した結果、4ほ場が優秀ほ場として表彰されました。

今後、さらにJA四万十と連携し、生産者の栽培技術向上に向けて支援を行っていきます。

サトイモの産地拡大に向けて！ ～サトイモの県外先進地調査の実施～



現地ほ場を視察

10月3日、愛媛県四国中央市のJAうま及び現地ほ場で、有望品目であるサトイモの先進地調査を行い、県域の普及指導員11名が参加しました。

JAうまでは、四国中央市でのサトイモの振興や栽培方法について研修した後、現地で生育状況などを視察しました。

参加者からは、「増収に向けた栽培のポイントは」「どこまで機械化は進んでいるのか」など多くの質問が出ました。

普及所は、今後もサトイモの産地拡大に向け、増収に向けた栽培方法の検討や、機械化への取組を支援していきます。

昔野菜の種を播いたよ！ ～十川小学校での栽培体験の実施～



1穴ずつ種まき

10月4日、四万十町立十川小学校の4年生7名が、学校近くのは場で昔野菜の栽培体験を行いました。

四万十町大道地区で古くから栽培されている大根・カブ・高菜の3種類で、畦づくりから播種、トンネルまでの作業を行いました。普及所やJA高知はた、生産者が播種方法について説明し、子供たちは「カブや高菜の種は小さくて播きにくかった」との声もありましたが、楽しく作業をしていました。

今後、平成28年から取り組んでいる昭和小学校とともに、栽培を通じて昔野菜の大切さを伝えていきます。

腰の負担の軽減に向けて！ ～ナバナのセルトレイ苗の機械移植の実演～



実演会の様子

10月22日、十和地区でナバナのセルトレイ苗の機械移植の実演会を開催し、生産者21名が参加しました。

実演会では、生産者にも機械移植作業を体験してもらいました。生産者からは「立ったまま作業ができるのはすごく楽で良い」「今までだったら、こんな短時間ではできなかった、来年やってみようかな」との声がありました。

また、セルトレイ苗については「普段移植している苗より小さいが、問題なさそう」「ネコブ病の苗からの持ち込みに悩まされていたが、セルトレイ苗なら心配ない」との声がありました。

普及所は、今後も作業負担の軽減に向けて、機械化やその機械を利用する仕組みづくりを支援していきます。

安心して働ける農業の職場づくりのために

～はちきん農業大学第4回高南地区講座～



熱心に受講する参加者

10月5日、普及所会議室で第4回高南地区講座を開催し、女性農業者5名が参加しました。

「農業の適正な労務管理」について社会保険労務士から、「経営継承や老後のために」と題して農業者年金制度について高知県農業会議から講義をしていただきました。

受講者からは、「雇用形態や日数の違いによって労災への加入がかわるのか」など労災についての感心が高く、特に農作業中の事故等に備えた労災の必要性について理解を深めていただきました。

普及所は、今後も地域講座を通じて、女性農業者の経営能力の向上や交流促進を支援していきます。